

# Canon FLEX

キヤンフレックスRM  
使用説明書



このたびはキヤノンフレックス RM をお選びくださいましたこと  
にありがとうございます。

キヤノンは、世界のカメラとして親しまれ我が国写真界発展の道  
をひらくとともに、各種のキヤノン製品を通じて皆様の「楽しい生  
活」の実現にたゆまぬ努力を続けてまいりました。

つねに新しい時代の要求とセンスを反映した製品企画にもとづい  
て、よりすぐれたキヤノンをお届けすることに心がけ、多年の経験  
に加えて独自の理論と生産技術を総合した、最も近代的かつ合理的  
な生産方式で材料から完成品まで一貫作業により製造が行われてお  
ります。したがって品質性能はもちろんデザイン、価格面のすべて  
にわたって必ずご愛用者皆様のご満足を頂けるものと信じておりま  
す。

ご家庭に、ご研究に、ご旅行ハイキングにキヤノン製品を十二分  
にご利用くださることを念願しております



バヨネットリング

ピント調節リング

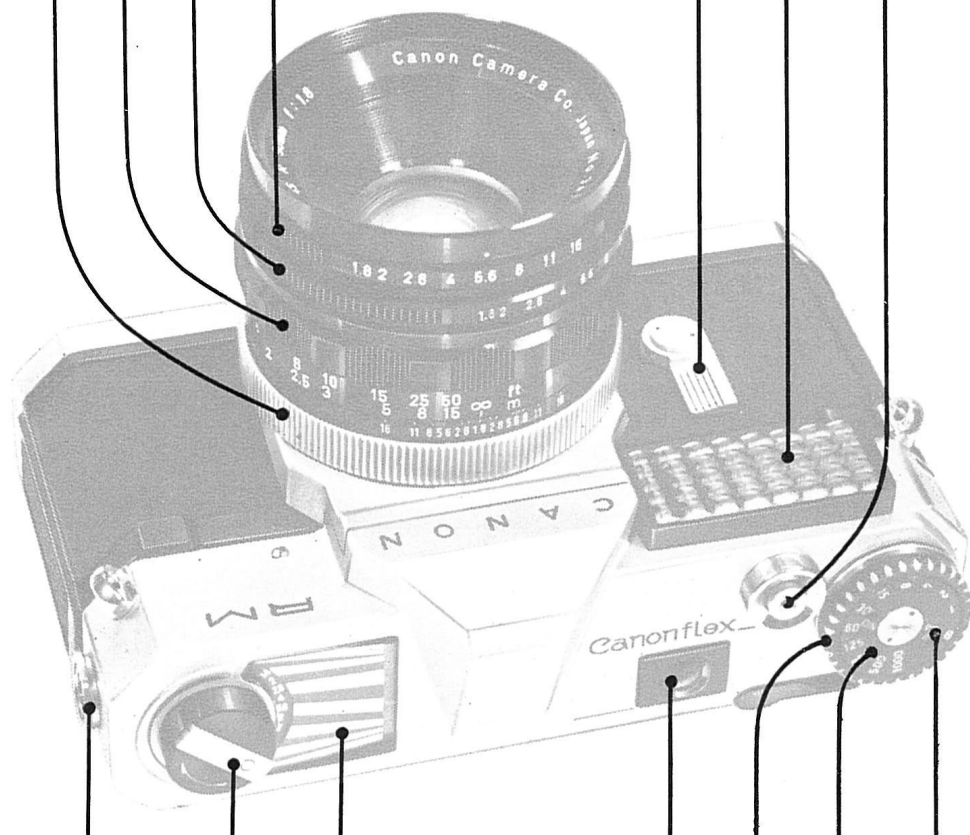
手動絞り

プリセット絞り

セルフタイマー

露出メーター  
受光窓

シャッター  
ボタン



巻戻しクランク

露出メーター  
指示窓

フィルム  
カウンター

シャッター  
ダイヤル

フィルム感度  
表示小窓

フラッシュユニット  
直結ソケット

感度セット  
リング

## キヤノンフレックス RM の主要性能

型 式	35 mm フィルム用一眼レフレックスカメラ
ファインダー	ペンタゴナル ダハ プリズム使用のアイレベル ファインダー, ウェストレベル ビューワー 2 型の 取付け可能
ピントガラス	フレネルレンズ使用, 特殊処理の高解像力性ピント ガラス, スプリットイメージ距離計内蔵
ミ ラ ー	クイックリターン式
プリセット絞り機構	スーパーキヤノマチック完全プリセット自動絞 り装置内蔵
シャッター	倍数系列 1/1000~1 秒等間隔目盛および B・X, 一軸 ダイヤル・フォーカルプレーン シャッター
連動露出計内蔵	シャッターダイヤルに連動する追針式・ASA 100 の フィルムに対して LV 6~17, 使用感度は ASA 10~ 800
シンクロフラッシュ	フラッシュ ユニット直結ソケットおよび自動 タイムラグ調整
交換レンズ	自動プリセット絞り式各種
セルフタイマー	シャッターボタンで始動する内蔵式, 時限調節可能
スーパーキヤノマチックの巻上げ	1 作動 120° 回転巻上げレバーに よるフィルム シャッターの巻上げおよびミラー 絞りのチャージ
フィルムの巻戻し	巻戻しボタンおよび折畳みクランク式
フィルム装填	裏蓋開閉式, 専用マガジンおよびパトローネ両用, 裏蓋ロックとマガジン開閉との 1 作動機構, フィル ムカウンターの自動復帰など
大きさ・重 量	145×92×47 mm/680 g (ボディのみ)

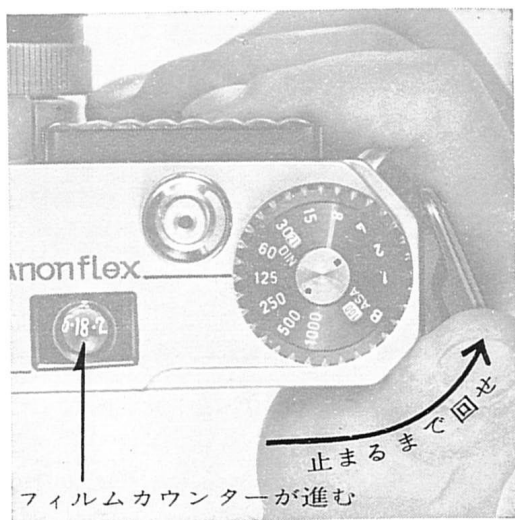
# 目次

---

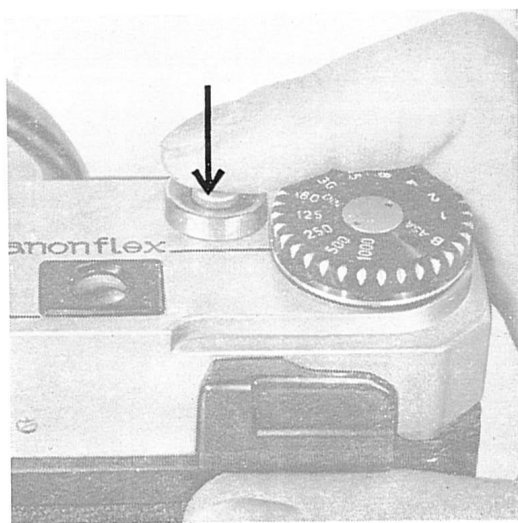
●	フィルムとシャッターの巻上げ	2
●	シャッターと絞り	4
	(スーパーキヤノマチックレンズ)	6
●	露出メーターの使い方	8
●	カメラの構え方	13
●	ピントの調節	14
●	フィルムの装填	16
●	フィルムの巻戻し	19
●	セルフタイマー	20
●	フラッシュ同調	21
●	レンズの特別な取扱い	22
●	二重露出	29
●	キヤノン専用マガジンとフィルムのつめ方	30
●	カメラの保存手入れ	32
●	撮影手順	33

## フィルムとシャッターの巻上げ

巻上げレバーを完全に止まるまで回すとフィルムが1コマ分送られてシャッターがセットされます。同時にフィルムカウンターも1目盛進みます。

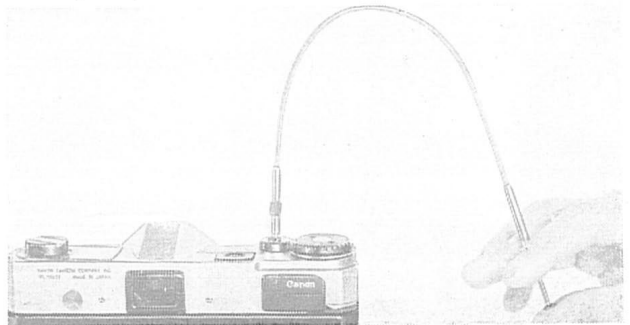


シャッターボタンを押すとミラーがはね上がり、同時にプリセットの位置までレンズが絞られシャッターが作動します。巻上げレバーはシャッターの作動後直ちに巻上げできる状態になります。





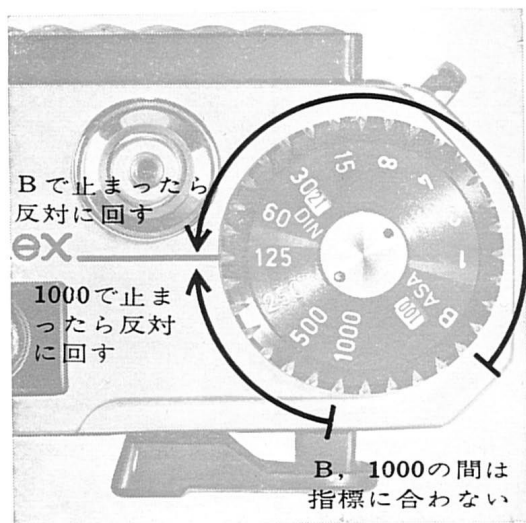
- 巻上げ操作によってミラーの作動機構およびレンズのプリセット絞り機構が同時にセットされます。
- フィルム装填後第一回目の巻上げのときレバーが空送りすることがありますから念のためもう一度巻上げてください。
- 撮影枚数表示 フィルムが1コマ巻上げられるごとにフィルムカウンターの目盛が1つずつ進んでフィルムの撮影枚数を示します。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマーク S まで戻ります。
- 巻上げが完全でないとシャッターボタンを押してもシャッターが作動しません。その場合にはもう一度巻上げを行ってください。
- シャッターボタンには、ケーブルリリースがつきます。



## シャッターと絞り

シャッターと絞りは露出の調節をするもので、連動メーターを使用すれば簡単に適正露出にセットできます。

シャッターダイヤルを回して必要の目盛を指標に合わせると、スピードの調節ができます。



レンズのプリセット絞りリングを回して必要な目盛を指標に合わせます。これによって光量調節や被写界深度 (26頁参照) の調節が行われます。





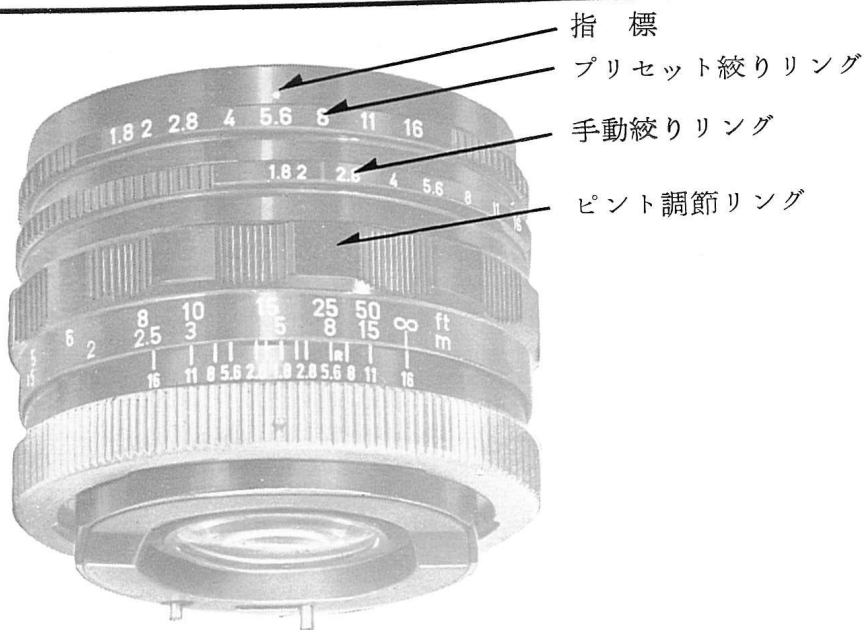
- 1000—B 目盛の間は回転できません。
- 目盛は 1/1000秒, 1/15 秒などという場合の分母です。
- B はバルブ露出でシャッターボタンを押している間シャッターが開いていますから 1 秒以上の長時間露出に用いられます。
- T (タイム)露出の必要なときは, B にセットしロック付きのケーブル レリーズを使用して, 露出中ケーブル レリーズをロックしておきます。
- 1/60秒の橙色目盛は, X 接点を兼用しています。スピードライトの同調に使用しますが, その場合の露出時間はスピードライトの閃光時間だけのごく短い露出に相当します。
- 目盛のセットは, クリックストップからはずれた位置をさけてください。

- 手動絞りは開放位置にしておくこと。
- 絞り目盛と露光量の比率は F2 を基準として次の通りです。

絞り 値	1.2	1.4	1.8	2	2.8	(3.5)	4	5.6	8	11	16	22
露出比率	1/3	1/2	1/1.25	1	2	( 3 )	4	8	16	32	64	128

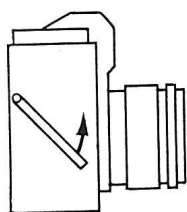
- 絞りは目盛の中間にセットしてもさしつかえありません。

# スーパーキヤノマチックレンズ

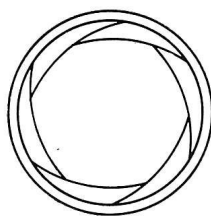


シャッターボタンを押す

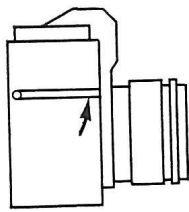
シャッターが切れる



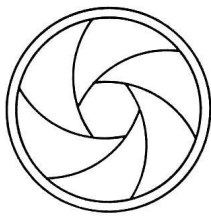
ミラー上がりはじめる



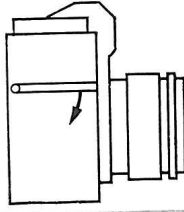
絞りが閉じはじめる



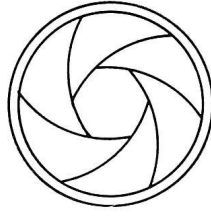
ミラーが上がる



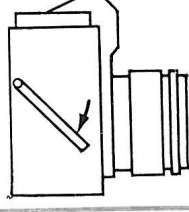
プリセットのところまで絞られる



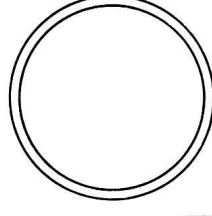
ミラー下りはじめる



絞りが開きはじめる



ミラー復帰する



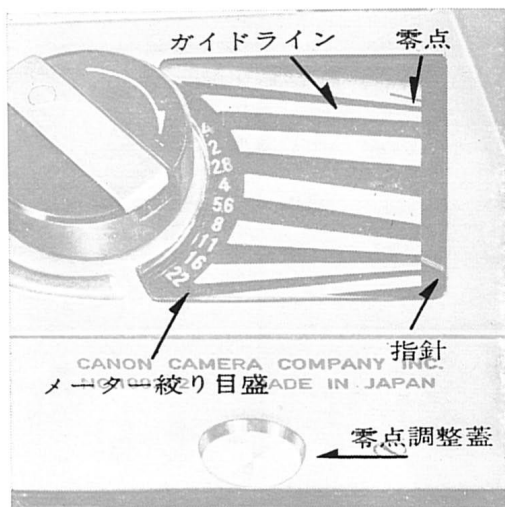
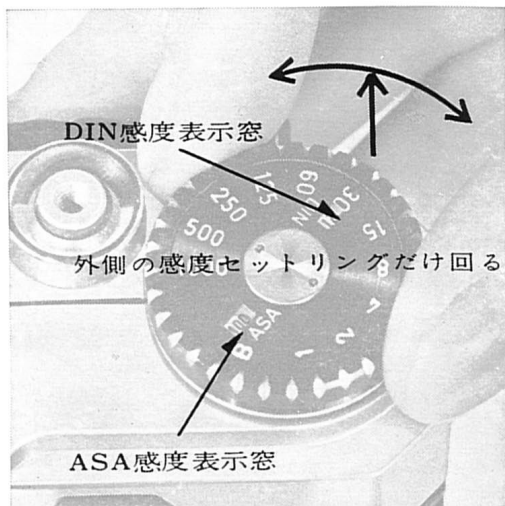
絞り開放となる

- **スーパーキヤノマチックレンズ**は、自動プリセット絞りをそなえており普段はレンズの口径が全開していますが、撮影中シャッターの作動している間だけは、絞りが所要の値まで自動的に絞られ、シャッターの作動が終ると、また自動的に全開するようになっております。
- **プリセット絞り** 自動的に絞り込まれる絞りの大きさを調節する機構で、このリングを回して目盛を指標に合わせておくと、シャッターが切れる瞬間だけその絞り値まで絞り込まれます。
- **スーパーキヤノマチック機構** による絞りの開閉は、高速シャッターの場合は眼に止まりませんが、**B** または低速シャッターの場合はこれを見ることができます。
- **手動絞り** を回すとプリセット絞りと無関係に絞りの開閉をすることができます。これによって絞られた状態のピントをしらべることができます。プリセット絞りを使用するときは、撮影前に手動絞りを必ず開放にしておいてください。
- **絞り** はその数値が大きくなるに従って暗くなり、目盛の一段ごとに明るさが半減するようになっています。したがって絞りを1目盛小さくしたときは露出時間を倍にし、2目盛小さくしたときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の間中も用いることができます。レンズによっては、最大口径の絞りとの間にだけ、明るさ半減の関係がないものもあります。キヤノンフレックス **RM** は連動メーターが内蔵されていますからシャッタースピードに対応する絞り値は自動的に決まります。

# 露出メーターの使い方

## ■ その準備

使用フィルムの感度を小窓に出します。それにはシャッターダイヤルをつまんで感度セットリングを持ち上げて回してやります。フィルムが **SS** なら **ASA** の小窓に **100** を出し落込みにセットします。

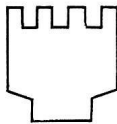


- シャッターダイヤルは外側のリングだけが持ちあがります
- 小窓に **ASA 10** が出たときはそれ以上右へ回せません。**800** が出たときは逆に左へ回せません。

● 使用感度

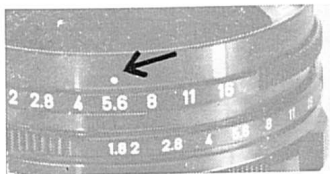
ASA	10	16	(32,40)	(64,80)	(125,160)	(250,320)	(500,640)	
			25	50	100	200	400	800
DIN	11	13	15	18	21	24	27	30
			(16,17)	(19,20)	(22,23)	(25,26)	(28,29)	

- カッコの中の数字は中間の点に相当する感度
- 使用フィルム感度はフィルムの外装箱か中の説明書に明示されています。
- 露出メーターの零点調整  
露出メーターの指針はいつも受光窓を完全に覆ったときに零点に戻ります。もし戻らない場合は次のようにして調整してください。



1. 零点調整蓋を左へ回して取りはずします。板ゴムなどをあてがって回すと簡単にはずすことができます。
2. 穴の中に切り込みのついた調整ピンが見えますからドライバーの先か棒状のもので左か右へ指針の動きを見ながら静かに動かし零点に合わせます。  
操作中は受光窓を完全に遮光しなければなりません。

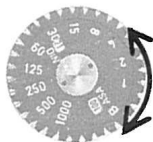
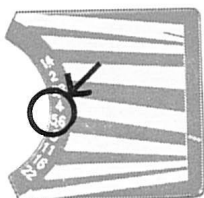
## □ 露出のきめ方①



レンズの絞り目盛をセットします。



被写体にカメラを向けるとメーター指針の位置が決まります。

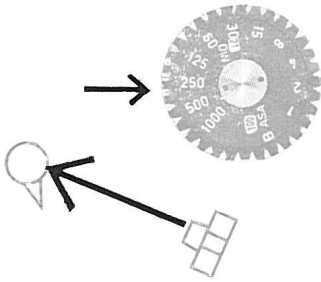


シャッターダイヤルを回して、レンズの絞りと同じ数字を指針の止まっているガイドラインに合わせます。

シャッターダイヤルは、クリックストップの位置にセットしてください。これでセットされます。

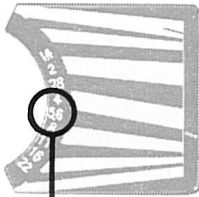
- 露出のきめ方には2通りの方法があります。いずれの方法を用いてもさしつかえありません。
- 明るさを測定するときメーター受光窓を手でふさがないようにご注意ください。
- **B 目盛**のシャッタースピードは意味がありませんから用いないでください。
- 絞り目盛の読みとりは、ガイドラインに沿って行います。

## □ 露出のきめ方②

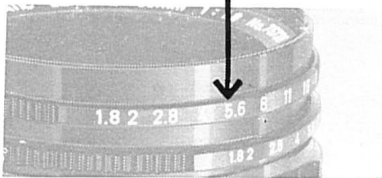


希望するシャッタースピードをセットして、

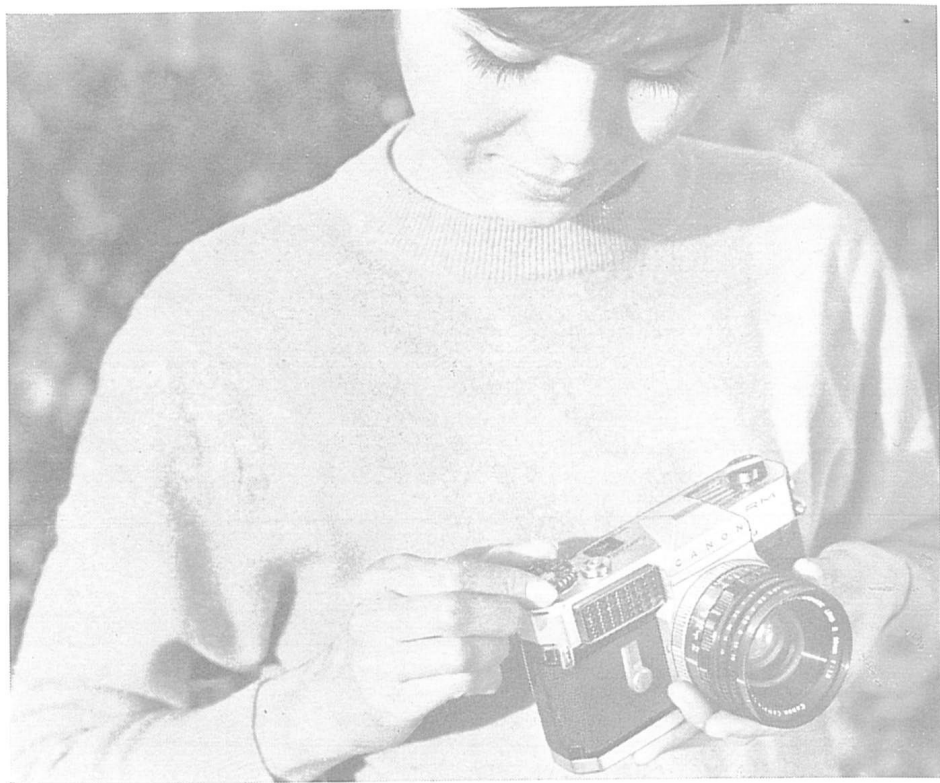
カメラを被写体に向けます。



指針の指示する絞り目盛を読みとり  
レンズの絞りをセットします。



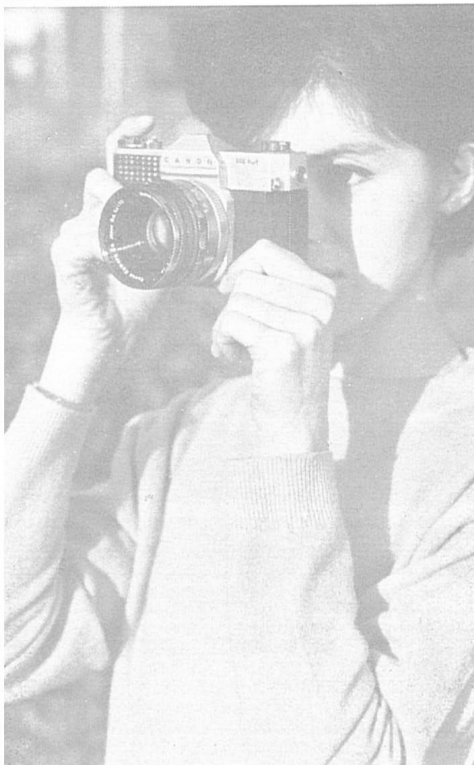
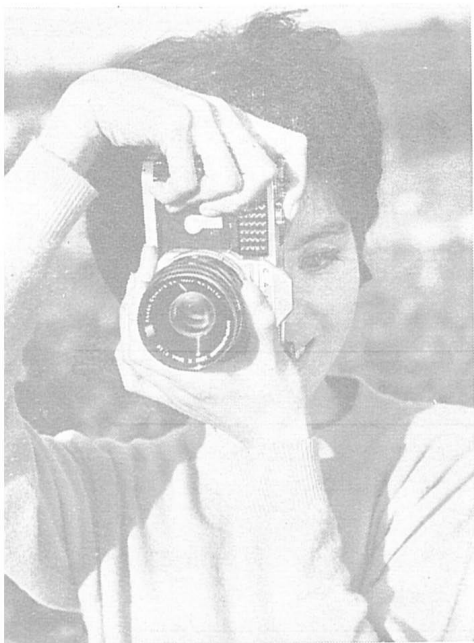
- シャッターダイヤルは目盛の中間が使えませんが、絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから、露出を厳格に考える場合はシャッター速度を先にきめ、これに応じて絞りを加減することが最も合理的となります。



- 空、雲、山、海のような明るい風景をバックにして人物撮影などをおこなうと、人物が露出不足になることがあります。これは露出計が、明るいバックの方に感じてメーターの針が振れすぎ、かんじんの人物の正しい露出を示さないからです。この様なときは被写体の近くで測定してください。  
逆光線下の撮影でも同じことがいえます。  
近寄れない場合には僅か下向きにして測定してください。
- 逆光の撮影ではバックあるいは主被写体のいずれに重点を置くかあらかじめ結果を予測しての測定が大切です。
- 一本のフィルム全部がムラなく均一に仕上がれば理想的です。そのためには最初から使用現像液をきめ無理な露出をしないようおすすめします。



## キヤノンフレックス RM の構え方



撮影の際カメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真をとるために最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って写真のように持ち、ファインダーを覗いて構図の決定をすると同時にピント合わせをし、それから静かにシャッターを切ります。その際特に次のことが大切です。

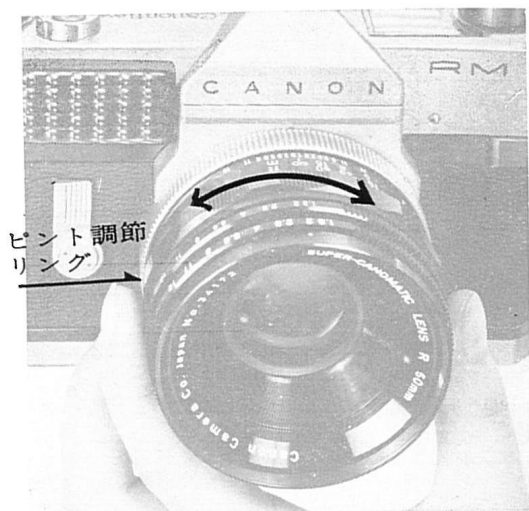
1. 両手は努めて深くカメラを握り込むこと。
2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること。
3. 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること。

● シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。

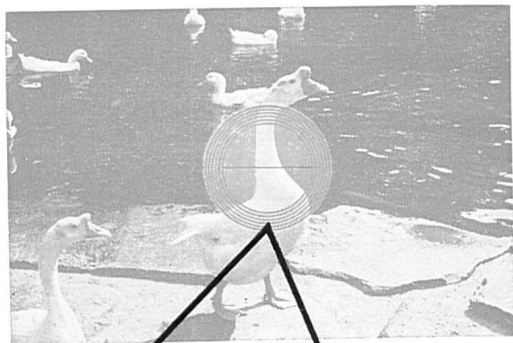
● 撮影には三脚とレリーズを使う方が確実です。特に1/30秒以下のスローシャッターを切るときはこの点にご注意ください。

## ピントの調節

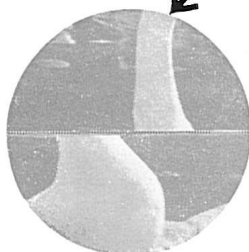
レンズキャップをはずし、ファインダーを覗きながら、レンズのピント調節リング（フォーカシングリング）を回します。



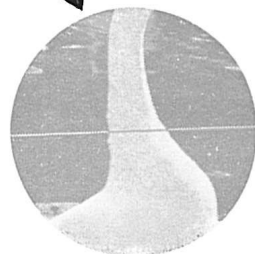
ファインダー視野の中央にある円形内の像が中央の線を境として左右にずれたときピントがはずれ、上下の像が一致したときピントが合います。



- スプリットイメージ  
距離計



ピントがはずれている



ピントが合っている

- ファインダーには視度補正レンズが用意されており、これを取付けると遠視や近視眼の方が眼鏡なしで使用できます。

+1.5 (ジオプター)

0

-2.5

-4



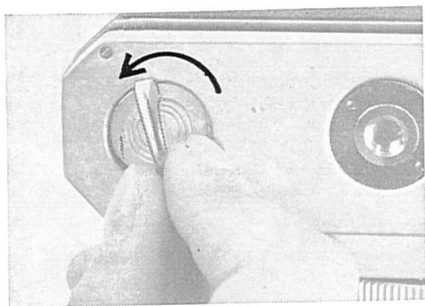
- ピントガラス面には、フィルムに写しこまれる画面そのままが眺められますから、レンズを交換しても撮影距離を変えてもパララックス（視差）を生ずることがありません。
- スプリットイメージ距離計を使わずにピントガラス面で焦点合わせをする場合には、円形部以外のところで行います。
- 接眼部にはウエストレベルビューワー2型を取付けることができます。その場合の像は左右が反対になります。

複写・顕微鏡写真撮影のさい利用します。



## フィルムの装填

フィルムは市販の 35 mm 日中装填用パトローネ（カートリッジ入りフィルム）でも、キヤノン専用マガジンVに入れたものでも同様に用いられます。



1

底部の裏蓋マガジン開閉つまみを引き起して左回しに半回転します。

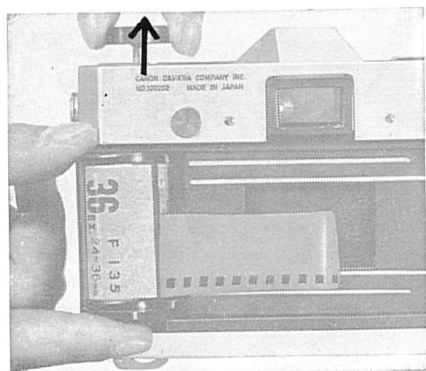
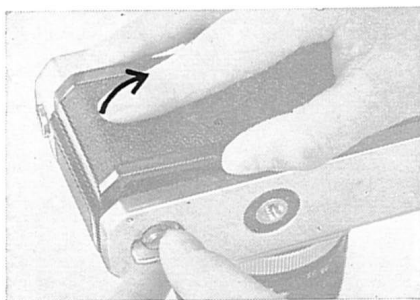
2

裏蓋が少し浮上りますから、これに指をかけて開きます。

3

巻戻しノブを十分引上げた後パトローネまたはマガジンをカメラ内に収め、再び巻戻しノブを元のように押しこみます。

- マガジンを入れる場合はカメラ底部の開閉つまみが開放位置でないと入りません。
- フィルムは乳剤面がレンズ側になります。



#### 4

フィルムの先端を引出し、巻取りスプールの溝に十分差し込み、スプールのつばを矢印の方向に少し回しながら溝ぎわの突起をフィルムのパーフォレーション（孔）にかけます。

#### 5

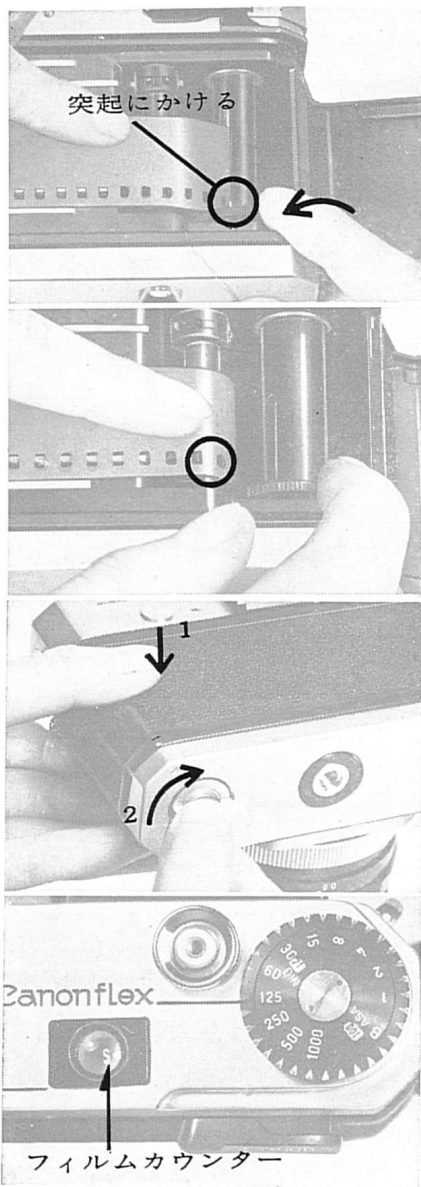
その際フィルムの孔をスプロケットの歯に完全にかかけ、またフィルムにたるみがあれば巻戻しクランクを起して右回しに静かに回してたるみをなくします。

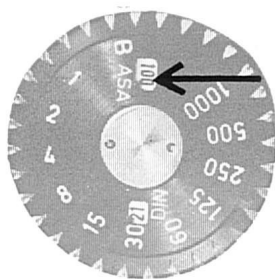
#### 6

裏蓋を閉じ、浮上らぬようこれを押えて開閉つまみを右回しに回します。巻戻しクランクは折り畳んでおきます。

#### 7

レンズキャップをかぶせたまま巻上げ操作を行い2回の空写し（シャッターを切る）をします。フィルムカウンターのマークがSから0になります。次に巻上げると一枚目の撮影準備ができます。

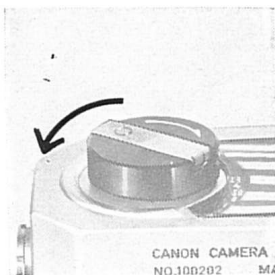




## フィルムの感度表示

フィルムの装填をしたときは、忘れずにその感度をシャッターダイヤルの小窓に表示しておきます。

フィルムの感度表示は8頁のフィルム感度の合わせ方の項をご参照ください。



## フィルム装填の良否の確かめ方

巻上げをするごとに巻戻しノブが回ります。このことでフィルムが正しく巻取られているか否かがわかりますから、巻上げの際はいつもこれを見るようにお勧めします。もし回らなければフィルムの孔がスプールから抜けだしているか、フィルムの孔がスプロケットからはずれていることとなります。その場合は19頁のフィルム巻戻しの要領でフィルムを一旦出して装填し直さなければなりません。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見に協力申上げることができます。

カメラやレンズの番号はいつでもわかるようなお心づかいをお勧めいたします。

## フィルムの巻戻し

フィルムが終りになると巻上げができなくなりますから、次の順序に従ってフィルムを元のパトローネまたはマガジンに巻戻します。

**1**

カメラ底部の巻戻しボタンを押しこんだ後

**2**

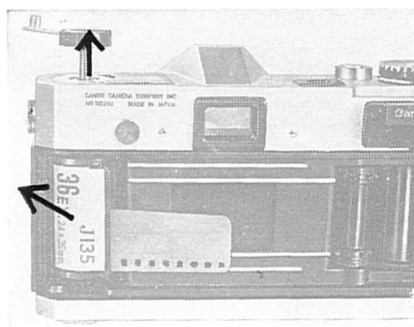
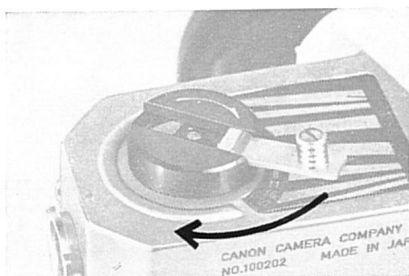
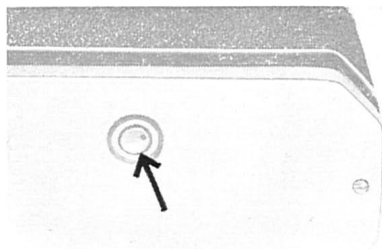
巻戻しクランクを引きおこして矢印の方向に回し、フィルムを元のマガジンに巻戻します。巻いている内に巻戻しボタンの回転が止まったならば直ちに巻戻しを中止します。

**3**

裏蓋開閉つまみを左回しに回して裏蓋を開きます。

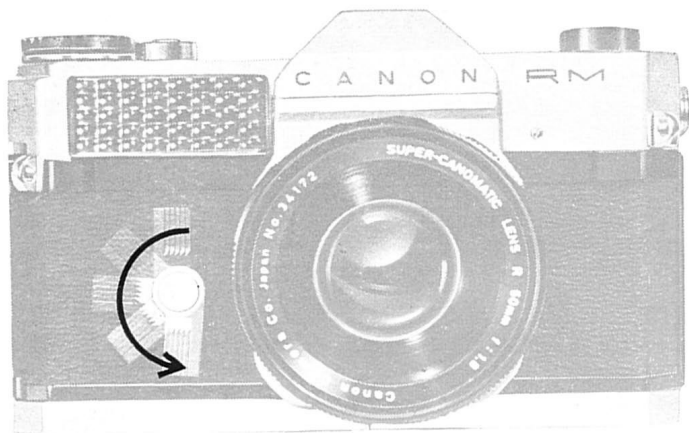
**4**

巻戻しノブを十分に引上げた後パトローネ（またはマガジン）を取出します。



- 巻戻しボタンは一度押したなら指を離してもさしつかえありません。レバーを巻上げると、このボタンは自動的に戻ります。
- フィルムが終りになっているのに無理に巻上げるとフィルムが切れたりして巻戻しができなくなりますからご注意ください。この際には暗室へ入ってから裏蓋を開くようにします。

## セルフタイマー



シャッターを巻上げ

セルフタイマーレバーを矢印方向に止まるまで  
回し、シャッターボタンを押します。

約 10 秒後にシャッターが作用します。

- セルフタイマーレバーは  $\frac{2}{3}$  以上巻上げること。
- 巻上げ位置によって時限調節ができます。
- シャッターの巻上げは後から行ってもさしつかえありません。



# フラッシュ同調

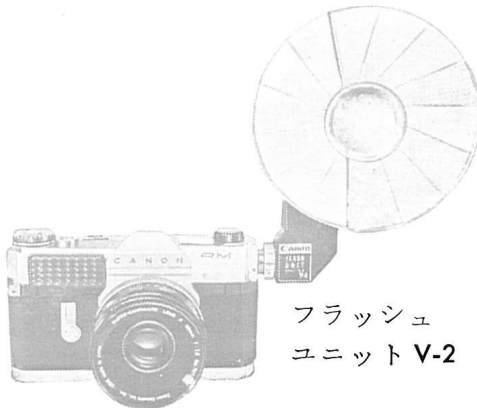
フラッシュユニット直結ソケットにキヤノンフラッシュユニット V-2 を接続しますと、下表の各シャッター速度でフラッシュ同調撮影をすることができます。スピードライト（ストロボフラッシュ）の接続もできます。

閃光のタイムラグはシャッターダイヤルのセットの際自動的に調節されます。

フラッシュ撮影の場合もレンズフードは必要です。

フラッシュ バルブ	同 調 範 囲											
	1000	500	250	125	60 (X)	30	15	8	4	2	1	B
FP 級	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○
M 級	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○
F 級	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○
スピードライト	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○

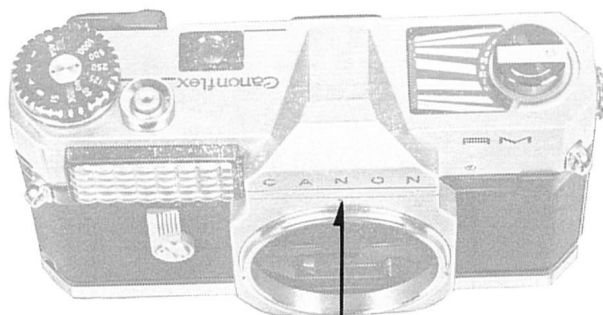
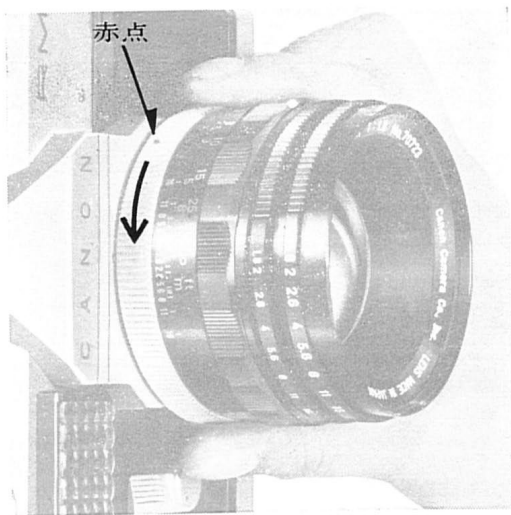
●印の部分は使用できません。 “X” 接点は 1/60 秒が用いられます。大型の M 級バルブの場合には 1/250 および 1/125 秒にも使用することができます。



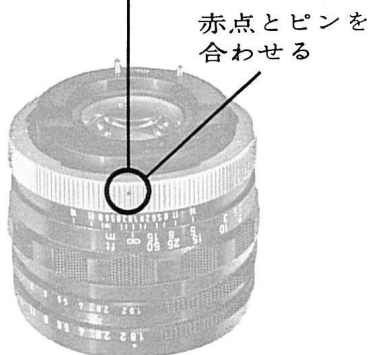
## レンズの特別な取扱い

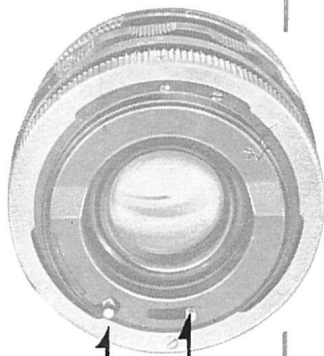
### □ レンズの交換

カメラからレンズをはずすには、レンズのバヨネットリングを左回しに回した後、レンズを前方に引出します。



レンズを取付けるにはカメラのマウント部の赤点にレンズの赤点を合わせてカメラにはめ込み、バヨネットリングを右回しして締付けます。





作動レバー

チャージレバー

- レンズの後端にはプリセット絞りのチャージレバーとその作動レバーとがあります。チャージレバーを矢印方向に動かしておいて、動作レバーを動かすと絞りが開閉するようになっています。レンズの取付けをする際は、このチャージレバーをチャージしてから取付けてください。なお、シャッターを巻上げてあるカメラにプリセット絞りのチャージしないレンズを取付けてシャッターを切りますと、最初の一回だけは自動プリセット機構が作用しません。もちろん、その次からは自動的にプリセットが行われます。
- レンズを取りはずした際ミラーに指先を触れないようにご注意ください。また長くレンズをはずしておくときは、カメラとレンズのマウントにそれぞれキャップや蓋をかぶせておきます。
- レンズの泡は明るさを、何百分の一か何千分の一減らすことにはなりますが、この程度では撮影上全然問題になりませんし、また像の鮮鋭度にも何等影響ありません。高級レンズに使われる特殊ガラスは水泡の残存を免かれませんが、高級レンズの製造上やむをえないものとしてご了承願います。

## ■ 距離目盛



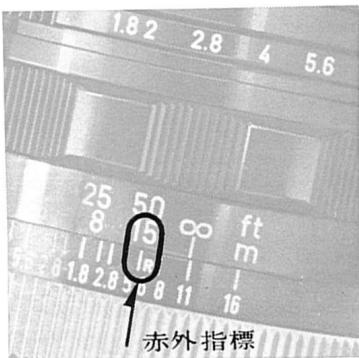
目盛

指標は  
1.8の上にある  
橙色線

はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。普通の撮影では必ずしも必要ありませんが被写界深度を知る場合や赤外撮影などに必要を生じます。

距離目盛は一桁数字の距離ではその文字の中心，2桁数字では2つの文字の間，3桁数字では中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置になっています。

## ■ 赤外指標 R (赤外マーク)



赤外指標

赤外撮影のときは，ピント位置が普通撮影より多少ずれますから修正しなければなりません。

普通にピントを合わせその距離目盛を赤外指標 R に合わせます。

つまりピントを合わせて距離目盛が15だったとすればこの15の目盛をRの位置までずらせばよいわけです。



↑  
フィルム位置  
マーク

- 実測してピントを合わせる場合には、フィルム位置マークから測り、その距離をレンズの目盛にうつします
- 赤外指標は  $8000\text{\AA}$  程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外フィルター（たとえばコダック 1R 135 フィルムとラッテン 87 フィルター、または JIS の 1R 77~78 フィルター）を用いる場合を標準にして目盛ってあります。赤末部を使用する場合、たとえばプラス X あるいは一般のパンクロフィルムにラッテン 25 または SR 59~60 程度の赤色フィルターを添用する際などは、修正移動量を  $1/3$  くらいとするのが適当です。

## 被写界深度目盛

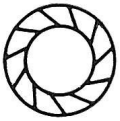
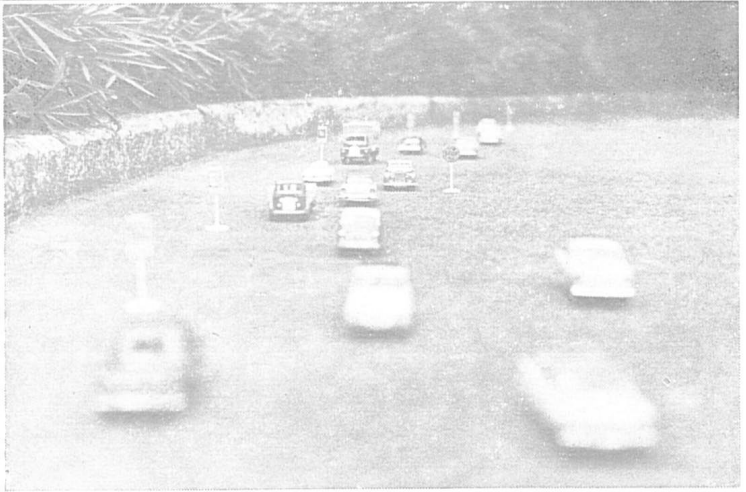


一つの被写体にピントを合わせたとき、その前後でなお鮮明に写る範囲を示すもので距離目盛と関連しています。これを使用するには、たとえば 50 mm レンズで 5 m の距離にある被写体にピントを合わせたとき F 5.6 の絞りを使うとすれば、距離指標の両側にある 5.6 の目盛の示す距離すなわち約 3.7 m と約 7.8 m とを読みとります。

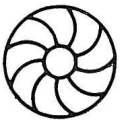
この間にあるものは鮮明に写るわけです。同様にして F11 に絞れば 2.9 m から 17 m まで鮮明に写ることがわかります。被写界深度はレンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

キャノンフレックスでは手動絞りをを用いることにより被写界深度をしらべることができます。

50 mm レンズ



50 mm レンズ





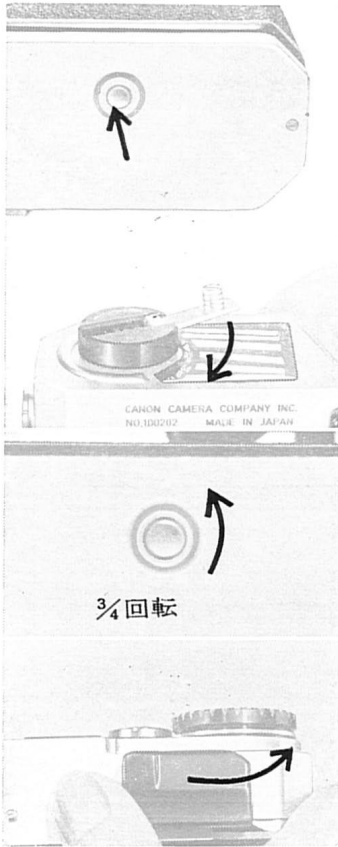


## 二重露出

キヤノンは通例の取扱いでは二重露出が防止されていますが必要に応じて次のようにすれば二重露出による撮影ができます。

1. 第1回目の露出が終わったら巻戻しボタンを押す。
2. その指標を見ながら巻戻しクラックでフィルムを巻戻し。
3. 指標が  $3/4$  回転したら巻戻しを止める。
4. ついで巻戻しクラックを軽く押さえて巻上げを行い、巻戻しクラックに抵抗を感じたら一旦両方の指を離す。
5. それから通常の巻上げを行う。その操作を繰返すと、同一フィルム面上に何回でも露出することができる。

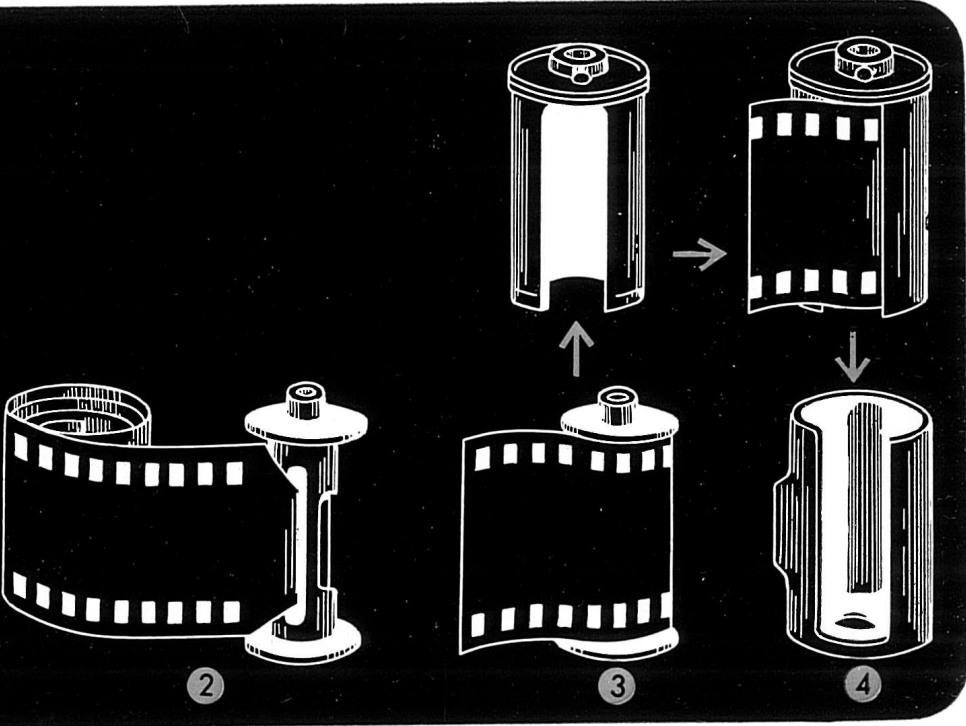
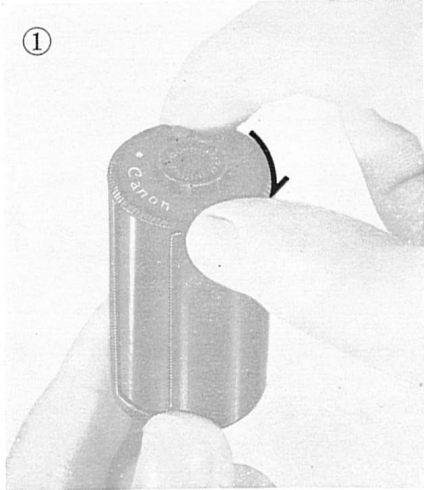
ただしフィルムカウンターは巻上げごとに進みます。



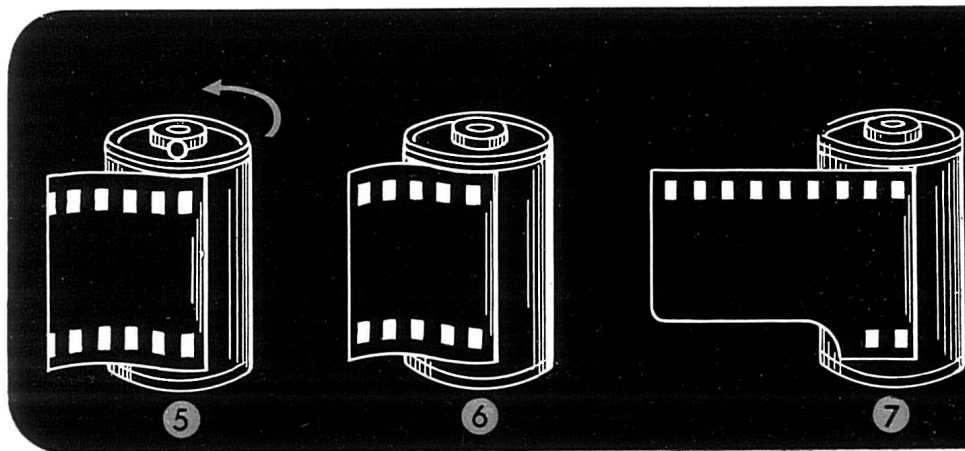
極寒地では、カメラは撮影時以外直接外気に触れさせないように保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずにすみます。

撮影に取出す場合も除々に外気に触れさせませんと水分の凝結でレンズ面が曇り、撮影のできないことがあります。

# キヤノン専用マガジンとフィルムのつめ方



- ① 図のようにマガジンを持って突起を指で矢印の方向に押すとロックはずれて内筒が少し回ります。内筒と外筒との窓が合ったとき内筒を引出します。
  - ② フィルムの乳剤面（巻きぐせの内側）を向うむきにして、先端をスプールの軸溝に差しこみます。溝は幅の広い方が入口です。フィルムは軸内の戻り止めの作用で戻らなくなるはずですから、少し動かして確かめてください。
  - ③ 乳剤面を内側にしてフィルムを巻きこみ、これを内筒に収めます。乳剤面に指先を触れてはなりません。またゆるく巻いて、後で強く巻きしめるとフィルムに傷がつきます。
  - ④ 窓口を合わせて内筒を外筒にはめ込みます。
  - ⑤ 矢印の方向に内筒を回します。
  - ⑥ パチンと音がして安全装置がかかります。
  - ⑦ 長巻きフィルムの場合はフィルムの端を図のように切り取ります。
- フィルムの取扱いは安全灯下か暗黒下で行わねばなりません。
  - フィルムを入れたマガジンはカメラに装填するとき以外は必ずマガジンケースに収めておいてください。
  - スプールやマガジンが現像液や定着液などで汚されていると、フィルムにシミが生じたり、マガジンを錆させたりしますから、きれいに拭いて使用することが大切です。



## カメラの保存手入れ

**カメラの保存：** カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまいこんで放置しておいてもシミや錆を生ずることがあります。むしろしばしば使用して外気に触れさせる方が無難です。長らく使用しないときはシリカゲルのような乾燥剤を入れてしまうことをおすすめします。

保存の場合は速写ケースをはずしてください。

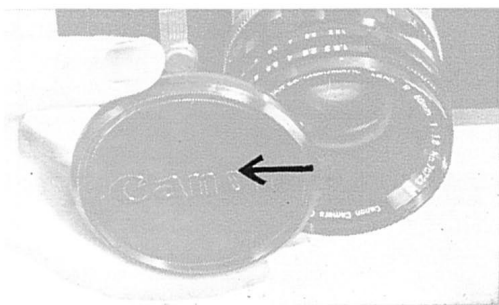
**カメラの手入れ：** 野外で使ったカメラは塵埃がつき易く、また雨の日や海辺で使ったあとは気付かないでも、水滴や塩分を受けてシミや錆を生じ、あるいはレンズのヤケや腐蝕の原因になります。そのような際は柔かい刷毛で埃を払い、乾いた柔い布で丁寧に拭きます。

レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのブロワーで吹き飛ばすか、柔い刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。

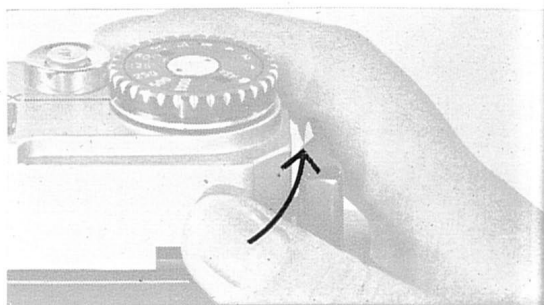
やむを得ないときは洗いさらした柔い清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずかに湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜればなお可）を付け、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。強く拭いたり、埃の付いているまま拭くと、かえってキズを付けますから注意が大切です。ミラーには特に手を触れないようにご注意ください。

カメラを海水に落したときは時を移さず清水で洗い、きれいに拭いたのち直ちに修理にお出してください。グズグズしていると腐蝕のため回復不能になります。

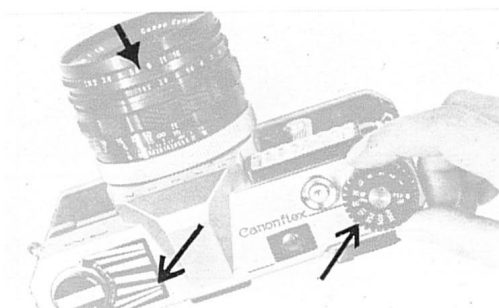
# 撮影の手順



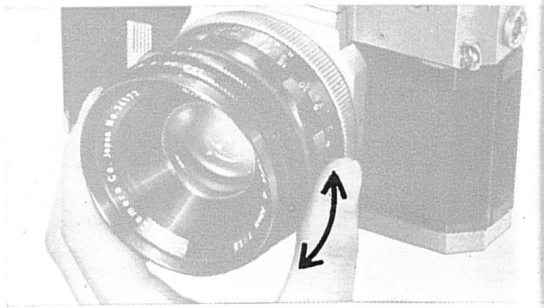
1 レンズキャップをはずす.



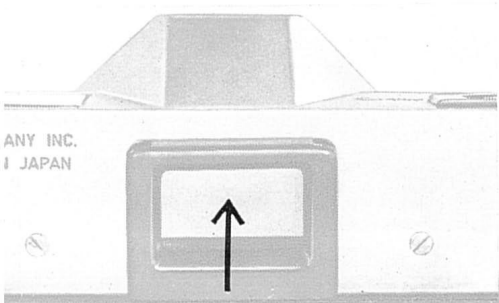
2 巻上げをする



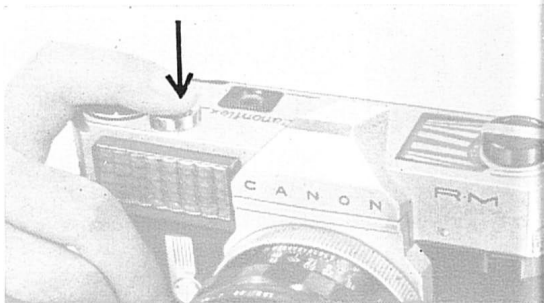
3 メーターによりシャッターと絞りをきめる.



4 被写体にピントを合わせる.



5 構図をきめる.



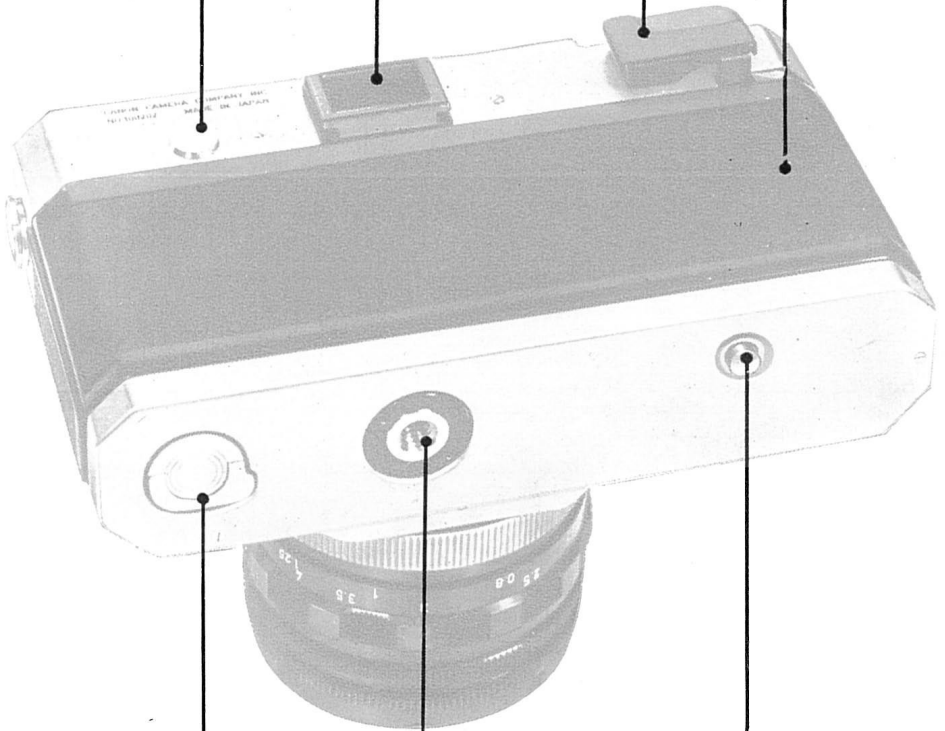
6 シャッターボタンを押す.

巻上げレバー

ファインダー接眼窓

裏蓋

零点調節ねじ蓋

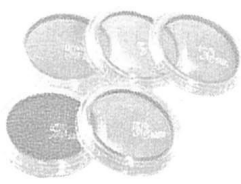
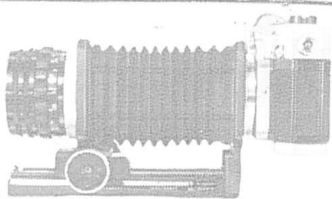
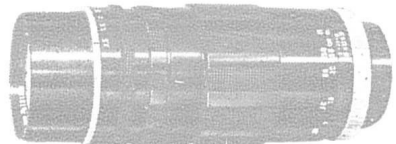
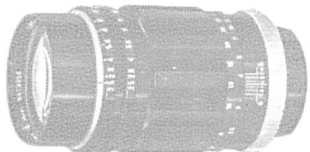
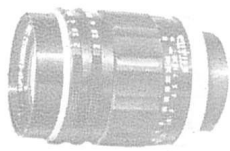
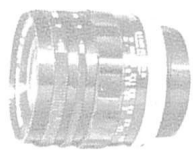
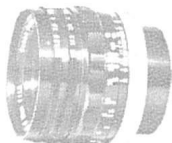


三脚取付けねじ孔

裏蓋開閉つまみ

巻戻しボタン

# レンズとアクセサリー



# キヤノンカメラ株式会社

本社・工場 東京・大田区下丸子町

電話 738 大代表 2111

営業所 東京・中央区銀座7-1 (ヤマビル3階)

電話 571-2141~5

## サービスステーション

東京・中央区銀座6-2 (松坂屋前)

電話 571-3767・4461

大阪・北区梅田2 (第一生命ビル2階)

電話 361-1261・1701

名古屋・中村区広小路西通2 (大商ビル6階)

電話 55-2811

広島・広島市鞆町26

電話 2-4615・4616

福岡・天神町12-1 (福岡ビル9階)

電話 76-1061・3561

札幌・北三条西4-1 (第一生命ビル4階)

電話 3-5788 2-7322

仙台・仙台市東2番丁68 (富士ビル8階)

電話 25-0215~7

# Canon FLEX

## キヤンフレックスRM 使用説明書

